



ベルリンで出会った鎮一とワルトラウト夫人の結婚パーティ。1920年代のドイツのきらびやかさと、若き二人の初々しさが表現されていました

舞台劇「音にいのちあり～鈴木鎮一」

松本市芸術文化祭 60 周年、鈴木鎮一先生生誕 120 周年、没後 20 周年記念



Suzuki Method 43

松本支部の子どもたち、のべ 150 名がオーケストラピットから迫り上がる形で登場。ヴィヴァルディの a-moll やアレグロ、キラキラ星変奏曲を斉奏。お客様も出演者をも魅了しました

写真：酒井和彦



三味線職人だった政吉が、ついに第 1 号のヴァイオリンを作り上げたシーン。歴史の大きな転換点となる重要な場面でした

愛と教育の生涯～」感動の本公演！

2019 年 9 月 29 日（日）12:30、17:30 開演 まつもと市民芸術館主ホール



劇中、メンデルスゾーンやブルッフの協奏曲とシューベルトの「アヴェ・マリア」で美しい音を響かせたのが、スズキ・メソッド出身で、読売日本交響楽団コンサートマスターの伝田正秀さんとピアノ石川咲子先生



3時間 15分の大作を演じた後のカーテンコールに応える出演者と演奏家の皆さん。この後、夜公演に続きました！

松本市民総勢 300名のスタッフ・

キャストで創った感動のドラマ！



アンサンブルセバスチャンの皆さんが劇音楽を生演奏。舞台の進行に合わせた素敵な伴奏が、随所に光っていました



戦後の食べるものがない木曾福島での暮らし。「五平餅、うまやあ！」と声を揃えるシーン。息がびったりでした



冒頭に、鈴木先生の姪の鈴木裕子先生が、政吉制作のヴァイオリンで鎮一作曲「名古屋の子守唄」を披露



開幕直前、舞台では無音の「エイエイオー！」。美咲蘭さんの掛け声で、全員の集中力が一つにまとまります



鈴木裕子先生から、鎮一役の成田俊郎さんに花束。「素敵なおじやまを演じてくださり、ありがとうございます」



歴史上の有名人が物語に深みを与えました。アインシュタイン、井深大、本田宗一郎、そしてカザルスも（写真中央）



「母、危篤」の知らせで、新婚まもなくドイツから連れ帰ったワルトラウト夫人を、鎮一が母お良に紹介するシーン



「ヴァイオリニストになりたい」と話す若き日の鎮一に、父政吉は、「商売人にしたいのだ」と諭すシーン

